

## 「市民参加懇談会 in 札幌」の概要

1. 日時：平成18年9月29日（金）13:30～17:00
2. 会場：札幌市生涯学習センター
3. テーマ：原子力 ～ 知りたい情報は届いていますか ～
4. 出席者：
  - 市民参加懇談会コアメンバー  
碧海委員、浅田委員、新井委員、出光委員、井上委員、  
小川委員、東嶋委員、中村委員（司会・進行）
  - 原子力委員会  
木元委員（座長）  
（オブザーバー）近藤委員長、齋藤委員長代理  
町委員、前田委員
  - パネリスト
    - ・ 特定非営利活動法人  
北海道新エネルギー普及促進協会理事長 大友 詔雄氏
    - ・ 北海道大学大学院工学研究科教授 佐藤 正知氏
    - ・ テレビキャスター 佐藤 のりゆき氏

（参加者）約120名

（プレス）2社

## 5. 概要

- （1）第1部 パネルディスカッション（約90分）を佐藤のりゆき氏、大友詔雄氏、佐藤正知氏の3名により行い、原子力の知りたい情報は届いていますかについて御意見を伺い、コアメンバー、パネリストの間でディスカッションを行った。
- （2）第2部 市民からの御意見（約90分）では、参加者から御意見を伺うとともに、事前にいただいた御意見について、市民参加懇談会コアメンバー、パネリストの間でのディスカッションを交えて、活発な意見交換が行われた。

(第1部での主な発言)

- ・ 石油価格の高騰の問題は大変深刻である。エネルギーと食糧の課題は、北海道が担っていかなければならない。
- ・ 原子力について、依然アレルギーを示す人々がいる。日本は被爆国である事情が影響しているのではないか。
- ・ 資源のない日本は、江戸時代に戻るのか、原子力を使って今の生活を維持するのか、どちらかの選択をせざるを得ない。
- ・ 大事なことは原子力の政策をどう判断するかということ。それは個人の自由であるが、大事なことは議論である。その議論で更に大切なことは、真の情報開示。これができているか、原子力に携わる方々に考え直していただきたい。
- ・ 原子力に関する情報公開が必要。賛成、反対で議論し、反対派を締め出さないことが大切。
- ・ 日本全体の安全保障から考えても、エネルギーの問題は非常に大事。反対派・賛成派として戦うことではなくて、日本が今向かっていることに対してどう我々が協力し、皆で話し合い、伝え合うことが大事。
- ・ 原子力が安全であるということ、この一言で済ませようとしてきた広報活動に大変問題がある。原子力は大変危険なものである。しかし、人間の知恵、能力、人間のすばらしい才能、そして人間の総合力で、この危険なものを安全に運行することはできる。その知恵は何なのかを正確に広報していくべき。
- ・ エネルギー問題の解決に努力するのが大切であるということで原子力を選択したが、結局は勉強するほど安全性が欠けるという点で原子力が使えない技術だという思いがつのり、原子力から180度方向転換した。
- ・ 安全性を獲得してきた技術といえども、その危険を拭うことができないような技術は使えない。技術の安全性は使っていく中で再評価され、安全性が保てないものは排除される。
- ・ 原子力技術は、確かに理想的なエネルギー発生装置だと思うが、通常の技術は、事故の実規模の実証試験をすることができるが、原子力の場合にはそれができない。
- ・ 蓄積された放射能や核廃棄物を、万という年のオーダーで将来にわたって管理できるのか。
- ・ 将来の社会のために、できる限り早く原子力を使わないでも済むような状況を作り出す必要がある。
- ・ エネルギーの消費の在り方を見直すべきではないか。日本の社会はエネルギー面でうまくいっていないのではないか。

- ・日本の面積は非常に限られており、自然環境という意味では、自然エネルギーを使うことに非常に制限のある状況に置かれている。また、日本はエネルギーを大量に消費し、人口が多く、経済規模が大きいので原子力を抜きにしてエネルギー問題を考えることはできない。
- ・将来に向けて、もっと長いタイムスケールの中で利用できるようなエネルギーシステムの選択肢を持つということができないと、我々としては安心できない。
- ・スリーマイルアイランド事故で第3の容器が溶けた炉心を閉じ込めた状態であったこともあり、今までの設計で、実規模の実証試験をやらないから危険であるということではないのではないか。
- ・新エネルギーへの期待はあるが、新エネルギーが責任あるエネルギーソースになり得るのか。
- ・実際に原発を動かして安い電気が出てきて、大変経済的にはメリットがあるが、廃炉、核廃棄物の完全な処理、処分、管理、これを含めてコスト計算したとき、本当に安いのか是非明らかにしていただきたい。
- ・原子力政策大綱でも国家戦略でも言っているように、2030年頃になっても原子力を基盤電源としてその他の電源と共に使っていくという方向は、妥当ではないか。
- ・北海道は、バイオマスエネルギーの使用等、自前の資源を活用すべき。短期的には駄目であるが、将来の方向性としては間違っていない。
- ・原子力は安全であるという過程を、もっと説明すべき。
- ・エネルギーとしての風力は安定ではないが、原発は脆弱である。
- ・電気の使い方は、ジュールヒーティングという抵抗に電気を流すようなやり方はできる限りやめて、ヒートポンプという形で電気を有効に熱に変えて使うことが大事ではないか。
- ・放送局の立場は、まだ中立である。中立ということは、ごまかしている。勉強をしないで反対と言っている人が多い。
- ・日本は原子力主流で行くことを決めたから、そのことに対してどうするか、どうやって安全に我々の生命を守るようなやり方をしてくれるのか。

(第2部での主な発言)

- ・プルサーマルの安全性について賛否があるが、それについて知りたい。
- ・プルサーマルの安全性の評価については、幾つか検討事項はあるが、現在のところ、プルトニウムが入ることによる安全性は、ウラン燃料だけを使っているものと余り差はない。世界で実績もあり、安全上の問題は、ウラン燃料とほとんど変わりがないと評価している。
- ・ウラン-プルトニウムサイクルでなくて、トリウム-ウランサイクルというものがあり、有用なのではないか。
  - トリウム自身は核分裂せず、原子炉の中に入れて中性子を吸収させてウランに変え、そのウランを回収して燃料にしないと発電ができない。再処理しないでトリウムだけを使うことはできないが、トリウム自身の再処理が難しいので、後回しになっていることを理解していただきたい。
  - ウラン原子炉で原子力技術を確認していくのが、トリウムを使うための必要条件。順序としてウランの原子炉から原子力開発して利用を進めているのが世界の姿。決してトリウム利用を捨てているわけではない。
- ・30年、50年ぐらいのスパンで考えると、自然エネルギーが伸びてこない限り、原子力の重要性は非常に大きい。
- ・原子力の専門用語について、解説してもらっただけで精一杯。それを伝えるアナウンサーもいない。分かってない人がただ専門用語で伝えているという実態もある。テレビ、ラジオでニュース読んでいるアナウンサーが分かってないから、一般の人に伝わらない。
- ・何故原子力かについての本質の議論の回答が得られていない。それは、最初から悪い情報を隠してきたからではないか。
- ・大学でエネルギー論の授業を受け持っているが、学生は原子力に関して事前知識をほとんど有していない。
- ・原子力の話は、受け手の側も相当勉強しないとなかなか理解ができないのではないか。
- ・社会は非常に技術的にいろいろな知識体系を駆使してできており、それぞれ専門分野に分かれている。隣の分野が分からないということになっていくので、原子力の問題に関して横断的に取り組める、説明できる人材を用意する必要がある。
- ・疑問を感じたら、発電所の現場に仲間を集めて見に行くようにしている。そうして納得するのが受け手側の立場としての行動である。
- ・放射線利用に関して、一般市民は余りにも知らなさすぎである。

- ・放射線を利用した治療で舌ガンが完治した。世界の治療のスタンダードは、放射線治療でないか。
- ・放射線利用で役立つものは使うべき。ただし、条件は天然に存在しているものに限る。
- ・原発で出てくる放射能の量と、放射線を使う場合の量とは比較にならないので、一緒に議論することはおかしい。
- ・豊かな時代がこのまま続くとは思ってはなく、10年とか20年経つと追い込まれるかもしれないということが十分あり得る。早目にいろいろな手だてを用意することが大事。原子力も重要な選択肢の一つとして、しっかり育てるべき。
- ・原子力に携わる学者、研究者の方々は、おごることなく謙虚であってほしい。
- ・風力は、技術的にいろいろ問題を抱えているが、原発を作る技術のある国が、風力の技術を克服できないのはおかしいのではないか。